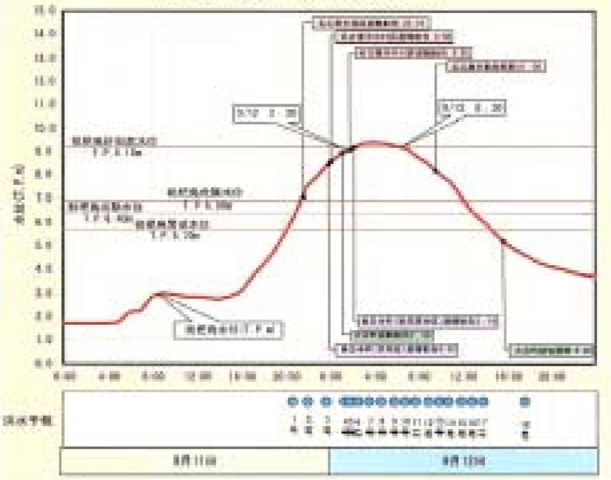
# 東海豪雨における教訓

**平成１２年９月１１日から１２日にかけて東海地方を襲った集中豪雨は，庄内川，新川の沿川を中心として甚大な被害を生じさせましたが，同時に水災対応に関して様々な教訓を残しました。**

## 教訓１　中小河川での洪水予報の実施

庄内川（国土交通大臣管理河川）では洪水予報がなされ適切な避難措置が講じられたのに対して、新川（愛知県管理河川）では、法改正前だったため、洪水予報を行う体制になっていませんでした。

庄内川（枇杷島地点）水位




## 教訓２　地下空間における浸水への対応

名古屋市の地下鉄４駅が浸水、３路線が不通になり、地下空間における浸水への対応が課題となりました。

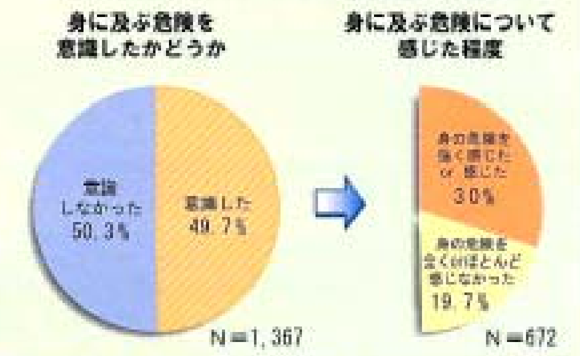
地下鉄大曽根駅における浸水

## 教訓３　水害の危険性・避難情報の周知

庄内川沿川で洪水ハザードマップを作成していたのは、岐阜県多治見市のみであったため、水害の危険性・避難情報の周知が課題になりました。

町全体が被災した西枇杷島町でも「身の危険を意識した」人が全体の半分いるのに対し、「身の危険を感じた」人は30%にとどまっています。

避難勧告発令時の住民意識（西枇杷島町）




※一戸建て・集中住宅の１階に住む世帯で、自宅にいた回答者を対象に集計
出典：群馬大学工学部　片田研究室